

6月市議会 一般質問（加藤鉦一議員） 学校給食は合理化すべきでない



り方や、教育としての効果、地域における存在意義など、更なる検討が必要である。」と答えました。

給食発祥地として

加藤鉦一議員は6月市議会一般質問で、3項目目に「学校給食について」取り上げました。
加藤議員は、学校給食は子どもの命を育む大切な事業であり、「合理化や行財政改革の対象にすべきではない」と述べ、行革の効果検証を質しました。

加藤議員は「給食発祥地としての学校給食の再構築」を求めました。

教育部長は、「学校給食では調理職員や運営箇所の削減により、運営費は大幅な削減効果が得られ、民営化後も問題なく推移しており、行革の成果はあった。」と合理化を正当化しました。

教育部長は、「学校給食は義務教育の9年間で、味覚や体の成長に果たす役割は非常に大きい。

学校給食発祥の地として明治22年、宗派を越えて集まった僧侶達による大督寺での給食から始まったものであるが、現在はおにぎり給食を通じて先人の思いと歴史を学んでいる。行事食や郷土食など本市固有の食文化にも触れ意義深い。

「櫛引・朝日」は更なる検討

安心、安全はもちろん、生産者などと連携し地産地消を推進し、

鶴岡の学校給食センターでは、アレルギー対応の専用室がないことに加え、対象者が多いため、限定せざるを得ない。

平成29年度の行革プランにおける櫛引・朝日の給食センターを鶴岡に統合する方針について、

生活相談所
加藤鉦一（宝徳）
Tel.0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤鉦一」と検索で入力を。

しかし、市全体で同一基準による食物アレルギー対応を構築するには抜本的な改善が必要だ。」と答えました。

率化や合理化の観点から事務事業の見直しの考えを示したものであり、

「食物アレルギー対応」を求めました。

地域住民の意向を

「食物アレルギー対応」を求めました。

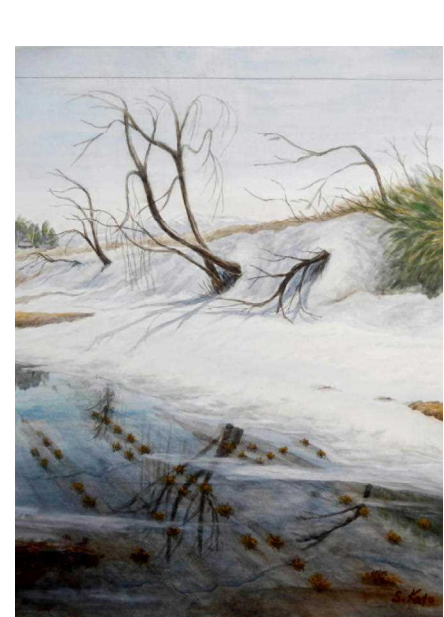
確認したものでない。

今後、給食拠点のあり方や、教育としての効果、地域における存在意義など、更なる検討が必要である。」と答えました。

今後、給食拠点のあり方や、教育としての効果、地域における存在意義など、更なる検討が必要である。」と答えました。

今後、給食拠点のあり方や、教育としての効果、地域における存在意義など、更なる検討が必要である。」と答えました。

今後、給食拠点のあり方や、教育としての効果、地域における存在意義など、更なる検討が必要である。」と答えました。



【絵を描く】 立ち上がる木たち

加藤貞雄（山王町／上平形出身）

田んぼの雪解けの風景が好きだ。3月から4月にかけて田んぼ一面を覆っていた雪がしだいに消えて畔に沿って細長く残り、ついにはわびしく消えてゆく。それと反比例するかのように黒々とした稲株が、溶けかかった雪面や水面から顔を出してくる。

伸びていたが、その姿が異常であるのに気がついた。

春を呼ぶ顔だ。そんな情景を描きたいのだが、難しい。

圧雪に押されたらしく、どの木もあるいは倒され、あるいは斜めに傾き、あるいは枝が折れていた。

中でも土を覆う水面の色や、溶けかかっているシャベット状の雪の色などは無理だ。自分のイメージで創るしかない。

しかし、どれもが上に向かって枝先をのびし、必至になって起き上がるようにしていた。

描いているときまざままな発見があつて面白い。「描く」とは発見と創作の所産だと思つている。

一瞬、東日本大震災の被災者たちの姿が目に見えた。

その年（平成23）の冬は大雪であつた。4月の半ばになつても田んぼの隅には雪がごっそりと残っていた。

ひと月前の3月11日、寒さに耐え、困難な環境の中でがんばってきた人たち。今はどうしているだろうか、などと案じて筆はなかなか思うように進まなかった。

田代から上野新田にかけてのそんな残雪の情景をスケッチした。道路から田んぼをへだてた向こうの土手にも雪が深く積つていて、そこから数本の立木が

※高校1年の時、美術を地主榎介先生から学んだ。

夏休みの宿題で、稲穂のひろがる田んぼの向こうの藤島駅とその彼方の月山を描いた絵を提出した。

先生から「この絵には気持ちがこもっている」と褒めてもらったのが忘れられない。

「気持ちこもる」この言葉は今も何よりも大事にしている。

この言葉は今も何よりも大事にしている。

中山道テクテク1人旅 22 千円貸して！

新町 齋藤留治

埼玉県戸田市付近をテクテク歩いていたら一人の中年の男が私に近寄ってきた。

別に暴力団や路上生活風でもなさそうなので、私はテツキリ道でも聞かれるのかと思っ

た。すると「申し分けないが、競艇場で金をすつかりスツて電車賃も無いので千円を貸してくれないか。」という。

貸しても戻ってほくないし、普通の家庭の親父のようにも見えたので、「奥さんは旦那が

こんなになるまでのめり込んでいるのを知っているのだろうか」と思いながら通り過ぎた。

若い頃こんな事に2、3回出くわした事があって、捨てゼリフを残された事もあった。

関東を抜けて岐阜までは長閑な山里歩きが続いたが、山里を抜け岐阜の街並みに指しか

かるとパチンコ店が目白押しで、「こんなに暇人がいる、俺のようにテクテク歩けば健康にも良いのに。」（これは私の勝手な解釈）と、

何日も山猿生活を続けた私には、きらきら光る岐阜の街には馴染めなかった。

全日本遊戯協同組合連合によると、全国平均でパチンコ台は25から30人に1台あるそうである。

パチンコ以外にも、冒頭で金をせびられたように競輪、競馬、競



艇等、日本には世界に誇れるほど？の公営遊戯が有るのに、アベ政権は世間の批判を無視して、公明党や維新と組んでIR法案（カジノ法）をこり押しをしている。

国際政治学者の高橋和夫先生によると、アメリカのカジノ王・アデルソンというユダヤ系アメリカ人の金がい

スラエルにばら撒かれ、イスラエル軍の兵器購入や入植地の拡大に使

われているという。シンガポールの「マリーナベイサンズ

（3棟の巨大なビルを橋で繋ぐ。）」はこの富豪によって建てられたそう

だ。「日本でも1兆円を投資する。」と豪語している人

によって、同じような物を建てられたら日本人は借金



マリーナベイサンズ（シンガポール）

地獄に連れて行かれてしまう。アデルソンが日本で儲けた金がイスラエルに送られ、パレスチナの人々から土地を奪い、日本には依存症の土産

そんなものを経済成長の目玉だと吹きまくるアベ首相の頭は変だ

と思うが、かつての貧乏学生を追いかけ回した公明党応援の宗教団

体が反対しないのはもつと変だ。

米朝首脳会談と憲法② 正しい評価はどうか ―あらためて憲法を学ぶ― 青山崇

志位共産党委員長は、歴史的な米朝首脳会談を心から歓迎という談話を発表し、毎日新聞

が書いているように、「長年にわたって厳しく敵対してきた米国と

北朝鮮が、初の首脳会談を行い、朝鮮半島の非核化と平和体制構築

をすすめる、両国関係を敵対から友好へと転換

させるために努力すること「合意」したこと高く評価した。

両国関係は、イラク戦争前夜のような情勢と危惧していた私も同じ考えである。

そして、翌14日の会見で、日本の一部に合意に否定的な論調、例えば過去の同様な合意

―1994年「米朝枠

組み合意」・2005年6カ国協議「共同声明」などが実行されなかったことなどをあげている。

しかし、これらは大使・次官級の合意であり、今回の首脳間合意の重みと質的に違うものである。

したがって、2国のあれこれをあげつらうのではなく、これを出発点として、関係国・国際社会がこの方向を

実らせていくことであると述べている。

憲法もこの立場にた



丈夫だまげの旅

この程1泊2日の小旅行をした。藤島老人クラブ連合会（会長 石塚 健氏）で秋田・青森の旅だ。90歳1人を最高に若いところで70歳が2人。男性14、女性11で25人の御一行様。幸せな2人連れは4組も。

▲初めの勉強は、秋田県小坂町で明治の芝居小屋「康茶館」。国の重要文化財での芝居見物だ。100年以上経っている建物だが、歌舞伎座などと同じ造りになっており、回り舞台があり、花道にすっぽんとよばれる穴もある。古いものだから全てが人力なのだ。平日ながら人数はまーまーの入りだった。10時半の開演で終演が2時。中間で頂くのを「幕の内弁当」と言う。親子の情の熱演に涙しながら、皆古い時代に戻ったよ

ち、前文で「日本国民は、恒久の平和を念願し、…平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、…全世界の国民が、ひとしく…平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」とし、平和を愛する諸国民を信頼し世界平和を維持すると決意した。

だから9条で戦争と戦力を放棄したのである。

うだったと言っ

▲次は弘前城。皆が感心したのが、そこまでの道を含めての、桜の木の姿形・樹勢の良さと雑草がないこと。小さく思う天守閣だったが、城は大きかったんだと思つた。石垣が膨れてきたのでの改修。

米沢の会社が天守閣を曳家してまだ石垣の解体中という段階でした。

▲翌日は立佞武多の館

その大きさ・高さ・迫力が圧倒する。高さは22mもあるのだった。下書きから出来上がるまで一年掛るとは納得

▲次が、行ってみたいローカル線で人気の五能線は、始発の五所川原から終点深浦駅まで

飲み物持参だから賑やかな事。地元の乗客とも話が弾んだようだが、やっぱり人気あるヤナ

ーの絶景続きだった。降りた駅には団体バスが3台もの人気ぶり。

▲年いっても知識を増やせる素敵の旅だった。

（石川）